

けんちく茨城

ARCHITECTURE IBARAKI 2018.10 VOL.98



一般社団法人
茨城県建築士会
<http://i-shikai.com>

けんちく茨城

2018.10.5 第98号

1	特集1	建築士会 顧問に聞く
4	特集2	座談会「委員長抱負を語る」
6	特集3	糸魚川市駅北大火視察 第2弾
8	建築作品紹介	土浦協同病院附属看護専門学校
10	久慈支部	常陸太田市「子育てメッセ」
11	先輩会員を訪ねて	
12	ようこそフレッシュマン	
14	総務・企画委員会	大納涼会
15	まちづくり委員会	常陸の国・下総の国 体感ツアー
16	研修委員会	建築生産入門等の講習会 総合図作成ガイドラインの講習会
18	会員委員会	ゴルフ・ボウリング大会
20	情報・広報委員会	応急危険度判定士講習会
21	青年委員会	関ブロ青年「栃木大会」
22		ソフトボール大会
23	女性委員会	わくわくセミナー 「リクシル見学会」 「折形」 「サッシの断熱性能」
25		ラブアークセミナー 「和文化研究会」
27		全国女性建築士連絡協議会 「高知大会」

題字
表紙

大井川 和彦 茨城県知事
土浦協同病院附属看護専門学校
設計監理 株式会社河野正博建築設計事務所

発行
次回
部数
発行

平成30年10月5日
平成31年2月5日予定
2,350部
一般社団法人 茨城県建築士会 会長 柴 和伸
〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F
TEL.029-305-0329 FAX.029-305-0330
E-mail kyy05413@nifty.com

編集

情報・広報委員会
市毛 純一 川又 晴彦 児玉 欽司 成田 孝成
大山 早嗣 武居 公江 浅野 祐一郎 石黒 幸喜
塙 万治 稲野辺 浩 軽部 守彦 沢畑 一成
山田 一博 中村 正明 谷島 正憲
株式会社 高野高速印刷

デザイン・印刷

「建築士の英知を 存分に発揮し、空き屋 対策への取り組み、安全 安心で快適な家づくりを」

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員
白田 信夫 氏

はくたのぶお

おもな経歴：県議会活動／監査委員（2回）・第104代県議会議長歴任
現在、営業戦略農林水産委員会、決算特別委員会、国体・障害者スポーツ大会推進
調査特別委員会の各委員茨城県環境審議会・茨城県スポーツ推進審議会の各委員

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員 白田信夫
氏に伺いました。

一県議会議員として、どのようなことに取り組
んでいらっしゃいますか。

平成6年初当選以来、終始変わらないのは、
地元地域の代表として、県産材を公共事業に、
或いは県内で使用すること、そして、県内業者
に最優先で仕事を発注できる環境にすること
であります。また、現在は、それに加えて、社会
資本の整備（陸、海、空）を押し進め、将来、
茨城が日本で一番住みやすい魅力的な地域に
なることでもあります。それには、ソーシャルイ
ンクルージョンを理念として、県民の皆様が力
を合わせ、助け合い、健康で文化的な生活を
実現できる、茨城県民の底力を確信している
ところであります。建築士会の皆様と一緒に頑
張って参りたいと思います。

一会の顧問活動として印象に残ることはあ
りますか。

会員の皆様は、様々な事業で頑張ってお
られますが、特に、『ヘリテージマネージャー』
の誕生は、建築士として専門家ならではのこ
とであり、大変すばらしいことだと思ってお
ります。また、地球温暖化対策の取り組みと
して、数年前から行われていた『苗木配布活
動』は、緑化運動を推進していることもあり、
大変良い活動だと思っております。そして、
NPO法人等にも積極的に協力し、色々なと
ころへ応援団としてご活躍されており、今
後も末永く続けて頂きたいと思っております。

一大切にしていること、趣味として続ける
ことはありますか。

趣味は、散歩と体力維持の為の運動であ
ります。特に、ゴルフのドライバーで260ヤ
ードに挑戦中であります。

一座右の銘があれば教えてください。

故郷を愛する心に限りなし『愛郷無限』、
これにつきます。

一建築士会会員に向けてのメッセージをお
願います。

平成27年、政府より『空家等対策の推
進に関する特別措置法』が施行され、全
国820万戸に及ぶ空家に対する対策が講
じられました。県内においても、実にほ
ぼ7軒に1軒は空家であり、各自治体
が、空家対策協議会等を設置し、具
体的な成果を上げている自治体もあ
りますが、対策が進んでいないのが
現状であります。

また、建築確認件数はリーマンショ
ックの影響で、平成21年度に全国
件数が前年度比約10%減の約50
万件となり、県内でも、前年度
比約12%減の約1万5千件まで
落ち込みましたが、昨年度は全
国件数で約56万件、県内で約
1万7千件となり、リーマンショ
ック前の水準まで回復し、近年
ではほぼ同じ件数で推移して
おります。

地域別の件数としましては、県南
地区や県西地区で全体の約60%
を占めており、つくばTXや圏
央道が開通した首都圏に近いエ
リアでの建築が多い傾向にあ
ります。このような環境の中、
今こそ、建築士会の皆様が活
躍する機会であると思いま
す。欧米においては、80年
から100年は、安全、安心な
快適な家づくりを求めてお
り、これからは、土地を
買うのではなく、家を買う
(中古住宅)時代となりつ
つあります。ぜひ、皆様が
先頭となり、英知を存分
に発揮され、ご活躍をお
祈りし、また、私も微力
ではございますが、桜川
市でも進めている調整区
域内の地区計画の設定等、
皆様の後押しを精一杯
行なって参ります。
(聞き手=情報・広報委員
会 浅野 祐一郎)



いざわ かつのり

おもな経歴：平成14年、茨城県議会議員に初当選し、現在4期目／議会運営・決算・総務企画・文教治安・土木企業の各委員会にて委員長を歴任。現在、茨城県監査委員。平成25年より当会顧問に就任。

「災害に強い 県土づくりには、 建築士・建築士会の 力が欠かせません。」

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員
伊沢 勝徳 氏

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員 伊沢勝徳氏に伺いました。

一 県議会議員として、どのようなことに取り組んでいらっしゃいますか。

元気ある茨城の実現に向けて七つの目標を掲げ取り組んでいます。一つ目は、「福祉」です。3世代家族で育った経験を活かしています。二つ目は、「交流拠点づくり」。夢のある地域の発展を目指します。三つ目は、「産業の活性化」。四つ目は、「安心・安全」です。消防団の一員として治安の確保を目指します。五つ目は、「男女共同参画社会」。女性議員の秘書の経験を活かして、働く女性の支援に取り組んでいます。女性の社会進出・活躍は大切なことですので、結婚・出産・子育てに伴う負担を、政治の立場から少しでも軽くしていきたいと考えています。そして、六つ目は、「元気な土浦」。土浦で育った地元っ子として元気のあるまちづくりを推進します。

最後に七つ目となりますが、「ひとづくり」です。私自身も子育て世代ですので、「子供たちの将来のためのまちづくり」に力を入れています。今の地域社会のより良いものを次世代につなげていき、茨城の未来を創る「人財」を育てることが、最も大切だと思います。

一 顧問として、建築士会の活動をどのようにとらえていますか。

私は、地元で消防団活動をしておりますが、団員として東日本大震災を経験したことをもとに「災害に強い県土づくり」「安心・安全なまちづくり」を訴えています。県民の生命・財産を守ることは政治の一番大切な使命であります。耐震診断・耐震補強等を始め、建築士・建築士会の果たす役割はきわめて大きいものがあります。

技術が進めば進むほど、建築の専門性も問わ

れるでしょうし、少しでも被害が軽減できるような活動や助言をいただければと思います。

一 「新しい茨城づくり」に向けて、建築士の果たす役割についてどう考えますか。

「新しい茨城づくり」を進めるにあたり「活があり県民が日本一幸せな県」づくりを基本理念とし「新しい豊かさ」「新しい安心安全」「新しい人財育成」「新しい夢・希望」という4つのチャレンジに取り組んでおります。その中でも、特に「新しい安心・安全」について先生方の果たす役割は大きいと思います。

先程も申し上げましたが、近年、地震や風水害等大規模な災害が多発しております。建築物やまちづくりのスペシャリストである建築士の専門的な知識や技術等を活かし、県行政に取り入れていく必要があると考えます。

一 建築士会会員に向けてのメッセージをお願いします。

特に若い建築士の方々には、挑戦する勇気を持ち、自分たちが中心の世代になったときのまちづくりというものを考えながら活動していただければ、建築士会の発展にもつながると思います。

最後に、建築士・建築士会の皆様のみまますのご活躍をお祈りいたします。誠にありがとうございました。

(聞き手=情報・広報委員会 浅野 祐一郎)

「建築士として建物の 安心安全を担い、 歴史のあるものを後世に 伝えていただきたい。」

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員
島田 幸三 氏

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員 島田幸三氏
に伺いました。

— 県議会議員として、どのようなことに取り組んで
いらっしゃるのですか。

様々な課題がありますが、現在いちばん力を入れていることは茨城空港の振興です。7月には7年ぶりにソウルとの定期便が再開され、10月には台湾とのチャーター便が定期便として継続されることとなります。今後はホテルや集客施設の誘致などに力を注ぎ、デザイン面での提案など建築士・建築士会の協力をいただきながら進めていきたいと考えています。その中でも防衛省の所管であるエアパークについて、浜松の航空自衛隊浜松広報館は年間50万人以上が来館する集客施設となっており、茨城においても今年度調査費が盛り込まれていますので、積極的な誘致を進めていきます。

もうひとつ力を入れて取り組んでいることは、つくばエクスプレス（TX）の茨城空港延伸です。駅・鉄道の力は大きく、小美玉市内でも羽鳥駅周辺の人口が増えています。茨城県の中心に位置する茨城空港までつくばエクスプレス（TX）を延伸することにより、沿線の周辺自治体はもちろん茨城県の活性化につながるものと考えています。

— 顧問として、建築士会の活動をどのようにとらえていますか。

建築士会の活動を知るきっかけは、東日本大震災で被災した茨城空港のロビー天井崩落でした。地震発生当日、茨城空港の開港一周年記念イベントが開催され、私が役員を務める社会福祉法人の保育園のこどもたちが午前中、その場に参加していました。もし、地震発生と同じ時間だったらと思うと背筋が凍る思いをしました。何故、天井が崩落したのかという疑問を抱き、その原因を調べていたところ、国交省から補強に関する通達は出されていましたが、具体的な基準について法令に定められていない事が分かりました。現在では法整備も行われ、今後、同

しまだ こうそう

おもな経歴：美野里町議会議長（第25代）／小美玉市議会議員（2期）／茨城県議会議員（2期）、現在、営業戦略農林水産委員会 委員・決算特別委員会 委員、国体・障害者スポーツ大会推進調査特別委員会 委員を務める。平成30年度より当会顧問に就任。

じょうな事態が発生しないことを願うばかりですが、当時、相談にのっていただいたのが柴会長であり、建築士会の活動を知る機会となりました。

最近では、保育園や特別養護老人ホームなど、小さなこどもから高齢者まで普段過ごす施設の木材利用が進んでいます。茨城県でも補助金を交付するなど、積極的に県産材利用に取り組んでいます。材料としては少し割高な面もありますが、デザインや機能面において設計に携わる建築士の役割がますます大きくなるものと考えますので、積極的な利用をお願いします。

今年度から顧問を務める事になりましたので、これから建築士会の活動には支部、そして会員の皆様と協力しながら取り組んでまいります。

— 「新しい茨城づくり」に向けて、建築士の果たす役割についてどう考えますか。

衣・食・住は生活の基本的な要件ですが、「住」において建物の安心安全を担うのが建築士の重要な役割と考えます。石岡市の八郷地区では歴史のある古民家も多く、その良さを活かしながら現代の生活に合うように補強・改修する技術や、歴史的な建造物を残す工夫は、建築士の力を借りなければできないものと考えます。

— 建築士会会員に向けてのメッセージをお願いします。

昨年、全国看板建築サミットが開催された石岡市内の看板建築や明治時代の建物、そして桜川市真壁町の伝統的建造物保存地区にある建物など、県内各地にある歴史的価値のあるものを是非、後世に伝えていただきたいと思います。そのような建築士の活動を行いやすい環境をつくるのが、政治側の役割と考えていますので、協力し一緒に考えこれからの建築の発展のために尽くしていきましょう。

（聞き手＝情報・広報委員会 大山 早嗣）



座談会

chairperson
conversation
meeting

【司会】
武居 公江
情報・広報委員会
副委員長

「委員長抱負を語る」

▶ 司会

本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。

新年度になり、7つの委員会のうち、5人の方が新委員長になりましたので、新たにそれぞれの抱負を語っていただくということで座談会を企画致しました。

▶ 小川 総務・企画委員会 委員長

建築士会に入ってから総務一筋でやってきました。

総務・企画は運営に関することで、特に財政関係、収入・支出を考えることが一番大きいかと思っています。また新しい企画を考えていく委員会でもあります。

今、会員減少・高齢化をどうするかが課題です。最近、活気がないのでそれを考えていかなければいけない状況です。そのためには、他の委員会との横の連携をもちながら、若い人が入ってきやすい、やりがいのある企画・体制等、どのようにすれば建築士会の状況がよくなるかを考えています。

▶ 小葉 研修委員会 委員長

青年部の委員から入り、青年部長を経験してきました。

研修委員会は建築士試験運営の協力をさせて頂いてますが、年々、受験者の推移が如実に減っているのが目にみえまして、これは若い世代の受験者の減少です。また、この委員会の特徴は、講習料が建築士会の事業収入となっていることです。講習会の参加者を増やすことが一番の目的で、会員以外でも参加を呼び掛けています。

CPDも点数が取れるような企画など、会員以外の受講者を増やすことに苦勞しています。マンネリ化しないように頭をひねっているところです。

▶ 根本 会員委員会 委員長

会員委員から入り、10年と続けています。一番の目標は会員拡大です。

ゴルフ・ボウリング・日帰り見学会・作品展と一年を通して行事があり、会員拡大の一つと思って日々努力しています。今年は2名の若い委員をメンバーに迎え、その仲間が広がればいいかな、と思っています。会員拡大の一つになってほしいです。ただ、若い人は社員が多いですから、所属会社で委員会に出やすい環境を作ってほしいですね。

▶ **大山 情報・広報委員会 委員長**

総務・企画委員会に6年所属していました。初めての情報・広報委員会での活動になります。

各委員会との接点を広げ、広報誌を通じて皆さんの活動を紹介していくことがメインの業務になっています。

広く情報を集めて紹介し、共有していくことを一番に考えていきたいと思います。情報コミュニティとして、人が集まる場所、情報を集める場所の機能を果たしたいです。

また、会員相互の交流や、会員以外で資格を持っている人への情報発信拠点として人が集まる企画をしていきます。

▶ **岩永 まちづくり委員会 委員長**

委員会に所属して9年になります。私は長崎出身で、つくばに来てから20年になります。

まちづくり委員会では、今まで茨城県内の古い建物を冊子にまとめることをやってきましたが、私はよそもの的な旅行気分で調査し茨城を知っていく形でやらせてもらっていました。

長崎と茨城、人間性やいろいろなものが違ってきます。よそ者の目でいるんなものに気づく役割ができればいいな、ということで委員会を盛り上げていきたいと思っています。

▶ **早川 青年委員会 委員長**

青年委員会には6年ぐらい所属しています。今、活性化に行き詰まっているので、青年委員会の活動を見直し、活動の活性化と会員拡大を考えています。魅力作りの議論をして変化していきたいです。交流会等の参加の声掛けや魅力ある事業の構築を話し合い、実行していくつもりです。

▶ **浜中 女性委員会 委員長**

女性委員会に組織変更する前の女性部から所属しています。

セミナーと見学会をこれまでのように活発に行っていくと同時に、様々な社会の課題と向き合い地域住民との交流ができればと思っています。

▶ **司 会**

お話を伺っていると、若い方はいかに入会していただくか、そのためにはどのようにしたらよいか、が課題のようです。

今後、委員会の横の繋がりを活用して、いかに魅力ある茨城県建築士会創りをするか、楽しみにしています。

本日はありがとうございました。



小川 憲一

総務・企画委員会
委員長



小葉 拓巳

研修委員会
委員長



根本 勝義

会員委員会
委員長



大山 早嗣

情報・広報委員会
委員長



岩永 至功

まちづくり委員会
委員長



早川 敏史

青年委員会
委員長



浜中 本子

女性委員会
委員長

糸魚川市駅北大火視察 第2弾

糸魚川市駅北大火視察復旧復興計画（けんちく茨城 97 号のつづき）（一社）茨城県建築士会 副会長 武村 実

●被災地の特性

被災地域は糸魚川駅の北側に位置する中心市街地であり、幅員 4m に満たない狭い道路が多く存在また間口が狭く奥行き長い町家風の本造家屋が密集し、現行基準に適合していない建築物が多く残る地域であった。

又、当地域は過去に於いても大火を経験しており、今回被災した家屋においても、昭和 7 年の大火（全焼 368 棟）で被災し、再建された家屋も多く含まれていた。※今回の被災を機に、消火活動等の遅れ等、道路網整備の一環として、区画整理事業を実施。



▲急ピッチで道路拡幅工事が進められている。



▲一部舗装工事了



▲被災地はこのような道路幅員 4m 未満の町並みが続き、消火活動に支障を来し、被害を拡大してしまった



▲道路幅員決定の場所は建物工事着手



▲被災後、条例改正等行い、最初に建てられた店舗併用住宅 延焼防止のため、軒先、ケラバ等、軒裏を設けない建築様式として建てられた店舗併用住宅 勿論、使用材料についても防火材を指定

※大火を 2 度と繰り返さない、災害に強い安全な市街地再生に向け、防災公園の整備、建築物の不燃化等を進めるとともに、消防水利をはじめ、消防基盤の拡充、整備を図っている。



▲復興住宅 2 棟目の建築 軒裏を設けない建築物を推進



▲子どもたちも一緒になって復旧復興に協力している。



▲復興まちづくり、3つの目標

- ①災害に強いまち ②にぎわいのあるまち
- ③住み続けられるまち

糸魚川市で採れる国産のヒスイのようなかたい絆で力を合わせて大火からの復興を誓いあっている。



▲糸魚川駅前にあるヒスイ王国館を拠点に、にぎわいのある、まちづくりを推進 本町通りにおける延焼遮断帯の形成 「糸魚川駅北地区防災街区整備地区計画」を決定 木造の建築物が密集する地域における建築物の不燃化に対する支援 市独自の防火仕様を設定 被災地域における敷地再編による木造建築物が密集する地域の解消 雁木や酒蔵等をはじめとする本町通りの歴史的町並みの再生



▲大火を免れた、糸魚川駅前通りに有る、旧市庁舎跡地に建つ公衆トイレ



▲ヒスイ採掘の山々が続く



▲糸魚川駅北前ロータリー



▲ヒスイ王国館に展示されてい最大級のヒスイの原石



▲駅前通り商店街



▲昭和27年12月10日指定



▲新潟県指定史跡 相馬御風宅視察



▲関東甲信越ブロック理事会で糸魚川市駅北にあり、大火の被害を免れた、新潟県指定史跡の相馬御風宅を見学



▲相馬御風は、詩人、自然主義評論家、良寛研究家として活躍し、早稲田大学の校歌や、童謡はよ来いの作詞者であり、会津八一、野口雨情、北大路魯山人等、多くの著名人が訪れた当初を、ほぼそのまま保存している。



建築作品紹介

土浦協同病院 附属 看護専門学校

意匠、構造、機能上優れていること。

土浦協同病院附属看護専門学校は1973年に開校、これまで3,000名以上の卒業生を送り出した歴史を持つ。高度な医療看護技術を誇る土浦協同病院が、緑豊かな新都市「おおつのヒルズ」へ移転したことに伴い、本校も病院の隣接地へ移転した。

本校西側校舎は「エントランスゲート」と位置付け、“高い正面性”“都市と学校の境界”を表現した。構造はボイドスラブとアンボンドPCを併用したRCスラブで、大スパンながらも軽快な表情で都市への圧迫感を軽減。ゲート下部は“都市に対する校内のアクティビティ開示装置”として「ガラス張りブリッジ」を浮かべた。

校舎は管理部門、学習部門、実習部門、学生部門を明確に区分。中央部に設けた開放的な「交流広場」や各階に設けた3層吹抜の「コミュニティラウンジ」では、学年を超えた“笑顔の交流”や学生と職員の“心の交流”が生まれる場として期待したい。

体育館は両端室を耐震壁とし、アリーナ南北面に大きな開口部を設けたことで、外と中を繋ぐ一体的な空間を創造。屋根は力学的合理性、経済性、デザイン性を考慮し、グリッド上のS造平行弦トラス架構を採用した。本校は全館LED照明によりランニングコストを抑制した。また、一時利用室は自動点灯方式、各教室は適

正照度を確保するために明るさセンサー付き照明、天井高の階段教室は室内温度を一定に保つために床吹出空調システムを取り入れた。

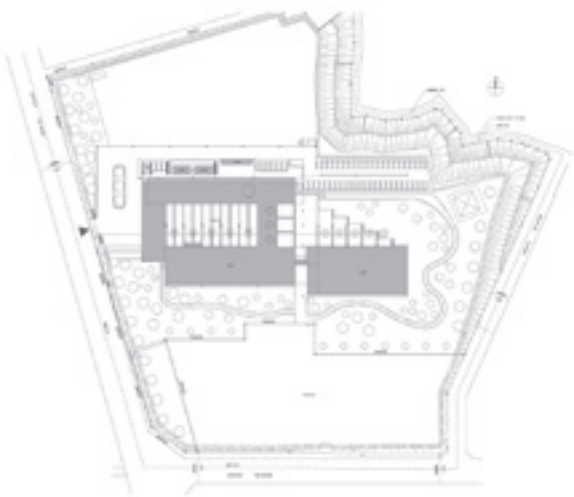
防災上、安全上、維持管理上十分配慮されていること。

非常時の水不足を考慮し、本校は一時的に受水槽へ貯水後、加圧ポンプで校内に給水する方法を採用、地震などの災害時は、周辺住民などへ受水槽の水を非常用水として開放する。

また、維持管理の簡易性及び設備更新の柔軟性を考慮し、設備スペースは1ヶ所に集中させ、十分な配管スペースも確保した。

ユニバーサルデザインに十分配慮されていること。

本校は誰もが使いやすい施設とするため、単純明快な平面構成とし、全館把握の容易化と動線距離の短縮化を図った。



■配置図



■1階平面図



■2階平面図



■3階平面図

周辺地域の景観形成やまちづくりに配慮されていること。

学生が交流広場で談笑する姿、講師がガラス張りブリッジを移動する情景など、校内のアクティビティを都市へ発信することで、本校と周辺地域との距離感を縮め、さらに、将来的には地域イベントなどが交流広場で開催されることを期待したい。

現在、全国的に医師・看護師不足が課題となる中で、本校が果たす役割は非常に大きい。未来の医療現場を支える学生が本校で勉学に励み、卒業後、優しい心と確かな技術で患者とその家族を支えることを願う。

地球環境維持への配慮がされていること。

ヒートアイランド現象の緩和、ひいては地球環境の保全に向け、敷地内に多様な木々を植栽するほか、水分浸透性の高いウッドチップを舗装材に採用し、南側校舎は庇を設けて建物への熱負荷を抑制、各教室はエネルギー消費効率の高い設備機器を選定した。



土浦協同病院附属看護専門学校
所在地:茨城県土浦市おおつ野2丁目2番10号
設計・監理:株式会社河野正博建築設計事務所
建物用途:看護専門学校
建築面積:4,058.39㎡
延床面積:7,595.91㎡
構造:RC造一部S造



■断面図

常陸太田市「^{ここいく}子育てメッセ」 今年も「段ボールハウスづくり」で参加

5年目となる常陸太田市の子育て支援イベント「^{ここいく}子育てメッセ」が、今年も6月3日(日)総合福祉会館にて開催されました。たくさんの親子連れが訪れ、年々ブラッシュアップされる24のイベントブースはどこも大盛況、熱気にあふれていました。このイベントは、常陸太田市と子育て支援団体との協働で、「子育てにやさしいまち」を広くお伝えするために平成26年より開催されています。昨年度より、秋のイベントシーズンを避けて、年度前半の開催となりました。

久慈支部では、初年度より「ストローハウスづくり」で参加、「段ボールハウスづくり」は3年目です。県青年女性委員会に指導をいただきスタートしましたが、いつまでこの人気が続くのか、当日受付で不安もありました。予想に反して今年も盛況、定員超で、目指して来てくれる子供たちや、最初から自宅に持ち帰りを希望する親子連れと、イ

ベントメニューとして定着した感があります。

小学校低学年までの小さなお子さんがほとんどですので、ハウスの組み立ては支部メンバーがリードし、マスキングテープやマーカーなどでデコレーションを思い切り楽しんでもらいました。

また、イベント全体に近隣4大学の学生ボランティアが多数サポートに入っており、当ブースも久慈支部メンバーと学生がペアを組んで進めました。支部メンバーも高齢化しており、孫のような子供たちとの間に学生スタッフは大切な存在です。

建築士の役割や建築士会のPRがまだまだ不足しており、次年度への課題はありますが、終了後のアンケート結果も好評で、生き生きとした子供たちの姿に触れ、久慈支部として出来る子育て支援のお手伝いは、もうしばらく続きそうです。



ママも一緒に楽しんでます。



お絵描きに集中！



参加者と支部メンバーの交流も！



こ～んな感じで製作中。

先輩会員 を訪ねて



建築士会で 絆を深める

大和田 信雄 氏 (筑西支部)
昭和22年生まれ / 昭和48年入会 / 会員歴45年

昭和50年頃の下館支部は年1回の研修旅行を兼ねた総会を実施しておりました。

先輩会員の皆様との1泊旅行は、深い絆をつくるには充分な事業でした。又この頃には県ソフトボール大会が始まり、会員勧誘を兼ねて参加いたしました。予選を勝ち抜いて県大会では、何度か優勝を果たしました、その効果か事業への参加者が増え会員も増加をして活発になってきました。

下館支部は名称を筑西支部と改めて、平成21年に支部長を引き継ぎました。

—筑西支部としての抱負

合併に伴う名称の変更でスタートした筑西支部は、高齢化による廃業などで、会員数が減少しています。

そんな中当支部にしかなできない研修会、勉強会を県西協議会、県本部の支援を受けて断熱材、の勉強会、文化財の修復の勉強会や、隈研吾先生の広沢美術館の完成前見学会など実施して頂き若い会員の方々が自主的に参加出来る魅力ある事業を目指してきました。

筑西支部では会員自らのために発想し、企画運営を行える自由な魅力ある支部としてあってほしいと願っています。

—後輩へのメッセージ

筑西支部は県内でも会費が比較的安い支部です。会に入っても名前だけの方がたくさんおりますが、会費を納めてくださることは有り難いことだと感謝致しております、しかしせっかくの会員の立場を生かす事してみませんか、まず士会事業への参加自分から問題解決の講習会開催、学びたい先生の講習会開催、見学会の開催、会員の権利を行使して仲間づくりと絆をもっと深めて頂きたいと思っています。

そして、若い方々が、建築士会会員であるからゆえに地域のリーダーとして活躍していただきたいと願っております。



女性会員を 5人にしたい

森 均 氏 (坂東支部)
昭和23年生まれ / 昭和43年入会 / 会員歴50年

私の父は、戦争前猿島郡境町にあった地方事務所に勤務し、材木の検査員をしてました。

役所を退職後、昭和37年か38年ごろ、事務所を開設し私が父に教えられて、岩井支部に出席して居ました、そのころは会員が70人から80人いたと思います。支部研修視察で八丈島のロイヤルホテルに行ったときは、すごく立派な建物でした。建築士の仕事とは、この様な立派な仕事を後生に残せるのだと考えさせられました。それから数年たち、地元又近辺の公民館、田園都市センターをお世話になった事が私自身には、大変勉強になり形として残すことができました。

—坂東支部長としての抱負

私は前増田支部長から引き継ぎ5年目に入っております。会員数は前支部長のときと同じ位で、ただ今年、女性会員が1人増えました。私が思っている事は女性会員を少なくとも5人にしたいです。また支部としては、行政行事に対し子供フェスティバルに青年部が中心になり、板をカンナ削りし、20cm角にし子供たちの絵を描かせ糸のこ切りでカットし穴あけかざり板にしてやる。その場所に建築士会ののぼり旗をたてアピール活動、又ハーフマラソンの協力もおこなっています、会員増強のため行政にも声かけしています。

—後輩へメッセージ

会員なってもらった以上、県西協議会の行事及び建築士会の行事に少しでも参加してもらい、県内の士会の皆様と顔見知りになることが、会の中身がわかると思いますので、一回でも多く参加してもらい、一歩前進することを願っています。

Welcome Freshman!!

- ①氏名、支部
- ②勤務先
- ③自己紹介
- ④入会の目的
- ⑤建築士会に期待する活動・参加したい活動
- ⑥建築士として将来の目標



谷 亮介 36歳
筑波支部

- ①谷亮介 36歳 筑波支部
- ②谷亮介構造設計室 代表
- ③福井県出身。ご縁あって茨城県で構造設計事務所を立ち上げました。つくば市竹園のつくば事務所と、新宿区早稲田の東京事務所があります。よろしくお願いいたします。(http://ryosuketani-structure.com)
- ④様々な活動をされている建築家の方々と交流を図りたいこと、今日のような問題があり、何が必要かなど、茨城の現状を知りたいと思い入会しました。
- ⑤個人の知見を広げることはもちろん、地域に貢献できる活動に参加していきたいと思っています。
- ⑥自分の持っている職能をどのように社会に還元できるか、そのために自分には何ができるかを日々考えています。人の豊かな生活に貢献したいです。

- ①小林 博之 48歳 県央支部
- ②(株)中建築設計事務所 勤務
- ③月に1・2回、ゆかいな仲間たちとゴルフを楽しんでいます。
- ④資格を取得してから10年以上が経過してしまい、大分遅くはなりましたが、会員の方々との交流を広げたいと思い入会しました。
- ⑤見学会やゴルフコンペに参加したいです。
- ⑥お客様に満足していただける建物を設計していきたいです。



小林 博之 48歳
県央支部



赤坂 育子
結城支部

- ①赤坂 育子 結城支部
- ②鉄骨製作工場に勤務しています。
- ③この度入会させて頂きました赤坂と申します。建築士会で開催されるイベントに興味があり入会させて頂きました。宜しくお願い致します。
- ④イベントを通じてたくさんの方々と交流をさせて頂きたく入会させて頂きました。
- ⑤講習会などに参加させて頂く事で、自分のスキルアップを図っていきたいと思います。
- ⑥今の職業に関する知識に留まらず、さらに幅広い知識を習得し1級建築士を取得したいと思います。



株式会社 桜設計事務所

代表取締役 山田博通

〒310-0851 茨城県水戸市千波町1239

TEL 029-241-8441 FAX 029-241-8579

E-mail: cnsakura@cocoa.ocn.jp (代表)

建築物の足もとを揺るぎないものにするための 「支持力」を提供します。

■パイル製品

高支持工法に対応 $F_c=105\text{N/mm}^2$ $F_c=123\text{N/mm}^2$ シリーズ杭
(PHC ST SC PRC 拡張杭 節杭 ※厚型・特厚型も対応)
PHC ST SC DAM BF(摩擦杭)その他

■認定工法

Hybridニーディング工法(施工品質管理強化高支持力工法 $\alpha=336\sim 880$) ●特認工法
Hybridニーディング工法II(施工品質管理強化高支持力工法 $\alpha=350$)
SUPERニーディング工法(さらに支持力が大幅UP/ $\alpha=600$)
SUPERDANK工法(中掘) $\alpha=425$
ニーディング工法 DANK工法(中掘)BFK工法



三谷セキサン株式会社

東京本社 〒111-0052 東京都台東区柳橋2-16-9 TEL.03-5821-1122 FAX.03-5821-1123

茨城営業所 〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-26 TEL.029-221-7768 FAX.029-221-7749

※ 設計のお手伝いもいたします。(是非お試しください)

<http://www.m-sekisan.co.jp>



茨城県建築士事務所協会・
茨城県建築士会
合同開催

大納涼会

平成30年7月27日(金)午後5時から
ホテル・テラスザガーデン水戸

式次第

開会の言葉
主催者あいさつ
来賓あいさつ
来賓紹介
乾杯
中締め

夏の恒例行事となった平成30年度の大納涼会が7月27日(金)「ホテル・テラスザガーデン水戸」において開催された。本年も建築士事務所協会との合同開催であるが、来賓、正会員、賛助会員、建築士事務所協会からの参加者を含め245名の参加があった。

幹事会である茨城県建築士事務所協会舟橋会長の主催者挨拶で始まり、続いて来賓の高橋靖水戸市長、海野透県議会議員、白田信夫県議会議員、伊沢勝徳県議会議員、西野一県議会議員よりそれぞれ挨拶をいただいた。

また来賓には島田幸三県議会議員、石田奈緒子茨城県国体・障害者スポーツ大会局長、茨城県建築三課より建築指導課海老沢課長、営繕課

小坪課長にも出席をいただいた。

乾杯の発声を島田幸三県議会議員にいただき納涼の宴に入った。すでに毎年恒例となっていることもあり、来賓も含め各会員相互や賛助会との交流が活発に図られ、大変有意義な催しとなった。また今回の納涼会では両会の会員である汎連合設計小室晶氏の国土交通大臣表彰受賞に際し、両会からお祝いを贈呈し挨拶をいただくという祝いの会にもなった。

宴は盛況のうちに進み、所定の時間までであったが、建築士事務所協会賛助会の梶山治夫代表幹事の中締めで、華やかな雰囲気うちに終了した。



常陸の国・下総の国 体感ツアー

まちづくり委員会の恒例の行事となりました、まちなみ体感ツアー「常陸の国・下総の国」を5月20日(日)、開催致しました。天候にも恵まれ、各支部、賛助会、委員による総勢44名の参加者による取手市、守谷市、常総市、坂東市、境町を巡る内容の濃いバスツアーとなりました。

行程は、朝の8時20分に常総市役所に集合し、まずは取手に向かいました。奈良漬けで有名な新六本店、隣の田中酒造、旧取手宿本陣

染野家住宅、旧水戸街道沿いの取手宿の街並み、それから長禅寺三世堂(さぎえどう)を見学しました。お昼は守谷へ移り、いまは「かやの木」という蕎麦屋として活用されている小菅家で昼食をとりました。午後は水海道(常総)にもどり街歩きをし、それから坂野家住宅を見学しました。その後、坂東へ移動し、坂東市観光交流センター「秀祿」を見学し、最後に境町のお茶屋野口徳太郎商店を見学し、予定時間を若干オーバーしてツアーを終わりました。



奥：新六本店、手前：田中酒造



小菅家の門と蔵：母屋は蕎麦屋「かやの木」として活用されている



五木宗レンガ蔵(水海道の街歩き)



高田歯科医院(水海道の街歩き)



坂野家住宅

『建築生産入門』講習会を受講して

■(株)小葉建設 柳沼 秀海

私が講習会を通して最も感じたことは、イラスト構図による解説という点であることから、視覚的観点から物事を捉えるため、内容理解が容易であったということです。建築工事の着工から竣工まで、設計・工事監理、施工管理の仕組み及び一連の流れが細かく明記されていました。私自身も経験したことのない工事内容（山留を必要とする地下階の工事等）もイラストを用いた解説で、直ぐに理解することができました。

また、この講習会及びテキストは、私自身もそうであるように、建設業に携わり始めた新入社員や経験年数の浅い社員の仕事への理解や興味、能力向上に大きく影響を与えるバイブルになるのではと感じました。

私も建設業（施工管理）に従事し6年目となり、後輩へ指導する立場にもなった今、この講習会を通して得たことを糧に、より良い指導ができるように努めると共に、自分自身のスキルアップを計っていきたいと思いました。

最後に、お忙しい中、講習を催してくださった、木谷宗一先生に感謝申し上げたいと思います。



株式会社 河野正博建築設計事務所

代表取締役 河野正博

〒305-0817

つくば市研究学園5丁目6-6 D12-510

TEL : 029-861-8847 FAX : 029-861-8848

E-mail : info@kono-arc.com URL : http://kono-arc.com/

『総合図作成ガイドライン』 講習会について

■ ㈱小葉建設 小林 健人

『総合図作成ガイドライン』講習会を受け、良かった点・残念だった点の2点述べさせていただきます。

まず良かった点ですが、1つに総合図の重要性への理解をより深められたことです。総合図を作成することにより、発注者・設計者・監理者・ゼネコン・サブコン間の意思、要望といった情報を共有することができ、また設計変更等による工事の手戻り、手直しを未然に防止する働きを持っている。

以上の役割を持っていることに、自分は総合図に対する考えがあやふやだった為、非常に勉強になりました。

2つ目は、テキストの内容です。総合図に記入すべき事項・記入法そして作図事例が詳しく記載、提示してありとて



も分かりやすいものでした。

ただ1つ残念だった点があります。それは、DVD講習であったことです。午後の講習では、講師の方が来て下さり、自身の経験・体験談を交えながら進めて頂き、私自身前めりになって聞き入っていました。やはり生の声には、説得力を感じました。

このような機会を設けること事態、時間・労力を大変費やすことだと思いますが、講師の方による解説つきの講習を可能でありましたら実現して頂きたいです。

最後に、私自身総合図を作成する立場にある為、今回の講習は、大変貴重なものとなりました。頂いたテキストを活用し、総合図作成に生かしていきたいと思えます。



株式会社 **市毛建築設計事務所**

代表取締役 **市毛 純一**

〒311-4152 水戸市河和田2丁目2190-7

TEL 029 (253) 1331 / FAX 029 (253) 3511

E-mail : j-ichige@sunshine.ne.jp

第28回 茨城県建築士会 チャリティーゴルフ大会

平成30年6月21日(木)
富士カントリー笠間倶楽部



恒例行事の「チャリティーゴルフ大会」が、6月21日(木)富士カントリー笠間倶楽部において開催されました。当初は雨の予報でしたが、建築士会会員皆様の日ごろの良い行いと鍛錬の成果で、当日は天候に恵まれ、なんと10年連続で雨を回避しているという記録を更新。スコアの更新も期待できるようなスタートとなりました。

各支部から会員、賛助会員合わせて119名が参加。3コース(東・西・南)に分かれ、18ホールストロークプレー、ハンデ新ペリア方式で、個人戦、団体戦が繰り広げられました。

結果は、「個人の部」では県央支部 丸山好史氏が、「女子の部」では久慈支部 市川三和子氏が、「団体の部」では参加11チームの中から石岡支部が優勝しました。

その他、ドラコン賞、ニアピン賞、各個人賞も発表されました。プレー終了後は、倶楽部内レストランにおいて表彰式、懇親会が行われ、柴会長のあいさつと、チャリティー金20万円が社会福祉法人 日照養徳園に寄付されました。

今回は、鹿島支部から10名の方が初参加され、大会をおおいに盛り上げていただきました。

また、課題として、待ち時間の改善や、ルールの改定、シルバーティーの活用など、私たち会員委員会も意見を出し合い、皆さまのご要望を聞き、ストレスのない運営を目指し来年以降も大会を盛り上げていきたいと思っております。

最後に、商品をご提供くださった会員及び賛助会の皆様、ご支援いただき大変ありがとうございます。次回もお誘いあわせの上、多数の皆様の参加をお待ちしております。

個人の部

優勝	丸山 好史	ネット69.6
準優勝	白田 信夫	ネット73.0
3位	武村 実	ネット73.4
ベストグロ	清水 洋一	グロス80

団体の部

	計	
優勝	石岡支部	グロス361.0
準優勝	筑西支部	グロス365.0
3位	会員委員会	グロス368.0
4位	県央支部	グロス369.0
5位	筑波支部	グロス379.0



「第11回ボウリング大会開催」活動報告

平成30年8月25日(土) 水戸市グリーンボウル

第11回ボウリング大会が、水戸グリーンボウルにて盛大に開催されました。各支部の会員、賛助会員を交え59名に参加をしていただきました。

武村副会長の始球式によりゲームがスタート！
ストライクやガーターがあるたびに大盛況が響き渡り、会場は楽しい雰囲気の中、無事終了しました！

結果の方ですが、個人賞の優勝は2ゲームでスコア363で和田淳一さん(県央支部)が、団体戦は筑波支部が優勝！

普段、なかなか顔合わせや、交流の出来ない

他支部の方々などと親睦を深め、楽しいレクリエーションを行うことが出来ました。

参加していただきました会員・賛助会員の方々、どうも有難うございました。

個人の部	スコアは2ゲーム合計	
優勝	和田 淳一(県央)	363
準優勝	中山 正巳(つくば)	358
3位	萩谷 孝一(県央)	346

団体の部	スコアはチーム合計	
優勝	筑波支部	844
準優勝	連合Bチーム	840



「茨城県震災建築物応急危険度判定士講習会」開催 応急危険度判定の実施方法を説明

平成30年9月3日、茨城県庁において「茨城県震災建築物応急危険度判定士講習会」が開催され、新規101名・更新11名延べ112名の方が参加されました。その中で、私は会場の設営又は受付等を担当し、終わり次第会場内で状況等を見学しました。当日は、第1編応急危険度判定基準から始まり、木造建築物の応急危険度判定、鉄骨造建築物の応急危険度判定、鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の応急危険度判定について約4時間の講習がありました。

講師の先生はテキストとスライドを用い、目視で判定をする際の判定基準や書式の記入方法等の説明の他、ご自身が新潟県中越地震・中越沖地震等の際、判定士として現場に赴いた時に体験された事についてもお話し下さいました。

私も講師の先生と共に新潟県中越地震・中越沖地震等において現地で活動をした際に、被災した住宅に帰れない住民が不安な夜を迎えている様子を目撃しました。住民の気持ちに寄り添いながら、1件でも多く又速やかな判定を安全第一で行い、帰宅・進入可能か進入不可

能を段階別に判定する事を心掛けて判定活動を行いました。

我々の任務は余震による被災建築物の危険性を判定し、二次的な災害を防止する事を目的としています。限られた時間内で判定作業をし、効率よく件数をこなす事が求められます。その中で、被災者に対しては事務的、機械的に調査をするだけではなく、調査判定を表示した後も判定結果の内容等を判りやすい言葉で丁寧に話をすることも大切かと思いました。

現在、大規模地震はいつどこで起きてもおかしくないと言われていています。派遣されれば、現場に駆けつける私達も大きな危険と隣合わせで作業をする事になります。応急危険度判定士の資格を更新するか迷う方も多くいらっしゃると思います。そうした中でも、今回、多くの方が新規で講習を受けられた事を、とても頼もしく感じました。

今度も応急危険度判定士の新規・更新の方が更に増え、いつでも災害時に対応できるような体制作りを私達でしていけたらと思います。





「関東甲信越建築士会 ブロック会栃木大会」に参加して

平成30年6月15日(金)・16日(土), 栃木県栃木市にある「栃木グランドホテル」にて、「平成30年度関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会栃木大会」が開催されました。

「Re:」(源点回帰)という大会テーマの下, 全体会議, 分科会, 懇親会が執り行われました。

茨城県建築士会からは, 土浦支部青年部が平成26年度に行った, 中城通りポケットパーク整備事業のその後の活動について報告を行いました。活動に向けた努力の様子と得られた成果に, 多くの方が関心を寄せていました。

また, 第二分科会では「ぶらトチギ〜まちから学ぶ源点と建築〜」というテーマで, 栃木市のまちを散策し他県の方とディスカッションを行いました。旧栃木町役場と横山郷土館の見学を行い, 地元の設計事務所の方の説明を聞いている際に, 同行していた建築に知識のない取材班が興味を持って話を聞いている姿を見て, 古いものに知見が加わることで一般の方でも価値を感じることができると感じました。翌日のディスカッションでも, 他県の方と深く議論を重ねることができ, 有意義な時間を過ごすことができました。

..... 建築塗装・総合防水・広告看板.....

暑さ・ECO 対策に、熱を消す不思議な塗料「**熱交換塗料**」責任施工の

株式会社 タケイ・アーツ

■ TEL 0299-23-1738 ■ <http://www.i-takei.co.jp/> ■

■ 熱交換塗料のカタログ・DVDをプレゼント致します ■

今年はJR水戸チームが優勝!第42回ソフトボール大会

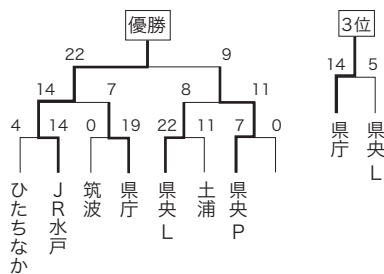
平成30年9月1日(土) 水戸市東野市民運動場

平成30年9月1日(土)、水戸市東野市民運動場にて、第42回ソフトボール大会(県大会)が開催されました。今大会優勝に輝いたのは、総合力と運も味方したJR水戸チーム。JR水戸チームの皆さん、おめでとうございます!お忙しいところ各支部から参加していただいた皆さん、本当にありがとうございました。



約10年ぶりに優勝したJR水戸チームの皆さん。

優勝	JR水戸	最優秀選手	中野 淳一 (JR水戸)
準優勝	県央P	敢闘賞	藤田 康広 (県央P)
3位	県庁		



有限会社
クボタ建築設計事務所

代表取締役 一級建築士 **久保田 吉文**

事務所 〒315-0001 石岡市石岡3055-9
TEL 0299-23-9305 FAX 0299-23-9307
E-mail: info@kubota-sekkei.co.jp URL http://kubota-sekkei.co.jp



KROスタジオ
KOTOBUKI RENDERING DESIGN STUDIO

茨城県建築士会・茨城県建築士事務所協会賛助会員

寿レンダリングス建築パーススタジオ

〒311-4141 茨城県水戸市赤塚1丁目385-31
TEL 029・246・6588

mail:kotobuki-r@nifty.ne.jp
http://kotobuki-r.com/

各種パース製作、お気軽にご相談ください。

「快適暮らし体験 LIXIL『住まいStudio』の見学会」

■土浦支部 清水 のぞみ

5月に行われましたわくわくセミナーの見学会ではリクシルの体感出来るショールーム「住まいStudio」を見学して参りました。こちらでは住宅の断熱性の違いによる冬の室内温度の感じ方、夏の強烈な陽射しの対処方法など、一年を通して快適な暮らしを送るために必要なことを学ぶことが出来ます。

まずエントランスにて、「一度建ててしまうと簡単に取り替えができないもの」をテーマとした映像があり、住宅の室内温度についてのことや、快適と感じる温度について、また、室内温度からなるヒートショックについての死亡率についての内容をクイズを交えながら学びました。

次は体感出来る見学内容に移り、外気温0°Cに設定され『昔』『今』『これから』と、3つの部屋室内温度の違いを体感しました。部屋に入りサッシを触ったり、足元からくる冷たさや大きいサッシ周辺での寒さ、椅子に座っているときと床に座っているときとの室内温度の違いを感じました。3つの部屋の室内にはそれぞれ温度計やサーモグラフィの映像で室内環境の快適さが一目で知ることができ、断熱性の違いによってかかる電気代の違いも数値化されていました。『これから』の部屋については、入ったときにみんなが「わー、全然違う」となるくらい肌でまず快適な温度の違いを感じ、サッシの冷たさや足元からくる寒さも和らぎました。サーモグラフィでも全体的に黄色くなり、不快と感じる青色はほぼなくなっていました。

次に夏の強烈な陽射しの対処方法として、南の窓と西の窓で、庇を使って陽射しを避けることで室内温度の違いをサーモグラフィで見ることができました。サッシ廻りや床まで真っ赤になった部屋が庇をつけることで快適に過ごせる室内温度になることを学びました。シャッターで陽射し

を遮る方法では、製品によっては風通しの穴が開くシャッターもあり、風は通しつつ夏の強烈な陽射しは遮るという、今日の日本の夏の暑さには大切な夏の室内温度を体感出来ました。

次は窓のフレーム素材やガラスの種類によって変わる断熱性を体感出来るコーナーです。窓のフレーム素材の違いをアイスを食べるときのスプーンに見立てて、素材が3つ違うものを用意してあり、直接スプーンに触れ冷たく感じるかで、フレーム素材の違いによって断熱性の違いがでることを学ぶことが出来ました。



最後にまとめとして、見学内容を復習できる映像があり、快適に暮らすためのキーワードとして温度、健康、光熱費、生涯生活費について具体的にまとめられた内容でした。これまでのショールームへ製品を見に行くのとは違い、「住まいStudio」では快適な暮らしとは、という根本的な内容で考えられていて、実際に体感することで住む側の関心を引きつけて高められる内容で、これから家を建てる人へも断熱性の大切さを考える機会になると思いました。今回の内容は建築に関わる私たちにも体感することで住む人と同じ視点になることができ、とても勉強になる見学会となりました。

「折形」

■土浦支部 若柳 綾子

6月20日(水)、つくば市研究学園にある日建学院校舎4階で13名の参加にて、日本の武家に伝わる文化である“折形”の研修が行われました。耳になじみの薄い言葉ですが、慶事・仏事両方に今も使われる作法で、包む文化です。物理的にはお金等を包むのですが、折形は心を包むことを旨とし、その形に大変こだわります。更に、菓子・瓶・花や節句の包みなども美しく折られています。

更にはその手作業の前に日本の時候も学びます。24節季・春夏秋冬の慣わしや植物・作物など。自然の中で人は何を学び、どう対応してきたか、東

西南北の注意事、風雨、時の流れや自然現象について、また月の満ち欠けなどについても影響されてきた事を知りました。

その後、和紙を持って、慶事は右上に折る・仏事は左上に折るなど基本から教えていただき、写真のような作品になりました。

日常の中に取り込んでいけたら良いと思います。

本当に風流で芸術的なひと時でした。

参加された皆様もとても真剣に聴き、取り組んでいました。



「サッシの断熱性能について」

■土浦支部 小林 明江

平成30年7月25日水曜日(午後7時から9時)、土浦市乙戸の土浦市三中地区公民館にて、YKK AP株式会社様より3人の講師をお招きし、女性部主催のわくわくセミナー「サッシの断熱性能について」を開催致しました。14名が参加しての勉強会となりました。

2020年には省エネ基準が義務化となるため、高性能な住宅が多くなってきました。その中で特にサッシの性能が省エネ基準に大きく左右し、近年高断熱性能の「樹脂窓」が注目されています。窓は家の中で熱の出入りが最も多く、住宅の高断熱化を行う際に、ア

ルミ樹脂複合窓から樹脂窓へ変えることが、窓の断熱性能を高めるのに最も効果的だそうです。

勉強会では、資料による説明だけではなく実際にサンプルの「アルミ窓」「アルミ樹脂複合窓」「樹脂窓」を、ドライアイスで冷やし断熱性能の違いを分かりやすく実演していただきました。断熱はもちろん、結露の発生の違いも明確で、樹脂窓の性能の高さがよく分かりました。この結露が発生するとカビが発生し、住宅だけでなく人体にも悪影響を及ぼすそうです。

また、海外にはアルミ窓が禁止の国もあり、樹脂窓

の普及が日本は遅れているそうです。

今回の勉強会は、実際の設計でも活かせる内容で、実演による樹脂窓の断熱性能を体験できた為、施主様にも良い提案ができそうです。



お忙しい中講演していただきました、YKK AP株式会社
の講師の皆様、またお集まりいただきました女性
部会や会員の皆様ありがとうございました。



活動 報告

女性委員会(ラブアークセミナー和文化研究会)

「和文化研究会 侘び数寄の心でつくる 現代の家 見学会」

■ 土浦支部 松岡 利香

5月27日(日)は、設計された樹・中村昌平建築事務所の中村先生が解説してくださり、無垢の木と京壁など自然素材で構成された室内は、とても心地よく落ち着く空間でした。

見学は、中村先生が腕を認めた畳職人の桑原さんの実演から始まりました。敷き込まれた畳は、目地が通っているだけでなく畳目の1列1列まで揃っており、確かな技術がうかがえる仕事でした。

室内建具は製作され、特に私が興味を持ったのは障子でした。引手までデザインし、二重に紙を張って断熱性を高めると共に戸車を採用し、既成概念にとらわれることなく機能性も重視している姿勢がうかがえました。

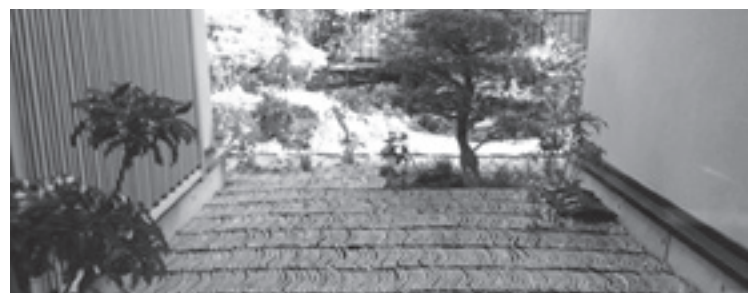
数寄屋とはいえ、コストを鑑み構造材は無節ではないものの、1本ずつチェックして基準を満たさない材は除外し選別しているため、節はほとんど気になりませんでした。もちろん天然乾燥材を使用しているとのことでした。

換気計画は、宅内の空気が効率的に循環するシステム

を採用し、基礎断熱、床の木製グレーチング、目透しに張られた畳の荒床など工夫されていました。

基礎は耐久性に配慮し、コンクリート強度は耐用年数90~100年の仕様を指定し、施主立会いで強度試験を行い、脱型は1週間強度試験で基準値を超えたことを確認した後に許可するなど徹底した監理をされているとのことでした。

様式のみならず構造や環境工学的な視点も含め、中村先生の確かな知識と経験、仕事に向かう姿勢のレベルの高さに感動した見学会でした。勉強させていただいたことを、日々の自分の仕事に活かしていきたいと思えます。



「～第二弾 侘び数寄の心でつくる現代の家見学会～ に参加して」

■ ひたちなか支部 川又 美恵子

5月27日(日)、緑晴れやかな日、中村昌平先生の設計された住宅見学会に参加しました。

ひたちなか市内の土地区画整理施行済み地内でその端部に位置するため、道を隔てて水田や森林が広がり閑静な住宅街の中にあっても、ひとときわ趣があり風景に馴染んだ住宅です。

近頃では珍しくなった深めの軒の出、軒天材の仕上げ、二本子持窓格子、がっちりとした基礎、玄関へのアプローチ。外観を一見してすばらしさを感じました。内部においても、木材の薫りと青畳が目にしみます。先生の住宅建築のポリシーは「家主を守る」こと。そして長く耐用する住宅。基礎コンクリートの強度指定はもちろん圧縮試験も、木材の選定も施主立会いで行う。内部仕上げにおいても合板は使わない、ビニルクロスは使わない。

その通り、廊下もすべて畳敷きです。国産藁を使用したタタミ床でへり無し、熊本表、小目の畳。子供さんが乗用玩具で走っても大丈夫なのです。内壁は京壁仕上げで下部はこんにゃくのりを塗布した和紙貼り。ふすまは石膏ボード下地の和紙貼り、家具扉は無垢材の板戸、障子は西ノ内和紙の複層貼り(障子棧の両面和紙貼り)で保温性は有効)。また通気を考慮した棚の納め方。細部にわたり「家主を守る」先生の知恵と工夫を講義いた

き、学ぶべきこと多々ありました。

見学会には施主様ご家族にも立ち会っていただきましたが、4歳のお子さんに建物について聞いてみると、建築の工程をよく見ておられたようで「大工さんのお仕事楽しかったよ、建舞いでぼくも屋根に上ったよ」と話してくれました。幼いながらもこの体験は一生忘れられないでしょう。若い施主様ご家族が中村先生の設計されたこの粋な住宅に住まれ、お子様方の今後にどのような感性を育てていかれるかと思うと、大変楽しみです。

ウェブ検索すれば和風、北欧調、南欧調、アメリカンスタイルはたまた丸太小屋までも商業ベースにあり、個々の好みで選択されるわけですが、日本のこの地域に、90年とはいわずとも、ローン終了後も住み続けるためにどのような工法、手法が最もよいのか。長く住み続けその間の住宅の変化もまた楽しめる佇まいであることが本当の住宅であると思うのですが、建て主も設計者もそれぞれの立場で熟考し、「本物の我が家」を手にしたと思う見学会でした。

中村先生には資料・パネルの作成、長時間わたるご説明や質問など受けていただきありがとうございました。

また、お施主様にも快く見学の間を提供いただき感謝申し上げます。



玄関へのアプローチ

畳の講習会

木製のベランダ

和紙と帯を使った襖

第28回全国女性建築士連絡協議会（高知）へ参加して

■土浦支部 高橋 光子

7月の下旬、異例の進路をたどると予想された台風の接近を心配しながら、羽田空港から高知へ出発しました。

私は、東京で行われる全国女性建築士連絡協議会には何度も参加してきましたが地方で行われる協議会へは、初めての参加となりました。女性建築士の皆さんの勉強熱心なところや、活躍の様子は、とても刺激をうけます。

被災地の現状報告や基調講演を聞き終えた後、大交流会となりましたが、席がくじ引きで、少し驚きました。茨城の一緒に参加している皆さんとはバラバラになりましたが、他県の皆さんとお話できる機会となり、また高知の会員の皆さんの心配りがありがたく、皿鉢料理やカツオの美味しい食べ方などを教えていただきながら、とても楽しく盛り上がりのある大交流会でした。

2日目の分科会「既存民家の活用」に参加した後は、坂本龍馬記念館、桂浜を歩き、土佐漆喰の白壁と水切瓦が美しい「藁工倉庫」も見学しました。

最終日は、あいにくの雨降りスタートでしたが、牧野植物園、竹林寺を見学しました。

昼食で立ち寄った古民家レストランの土佐水木は、古民家を素敵に再利用していました。

午後は、伝統工芸の土佐和紙の体験ができる工房へ行き、手すき和紙や和紙の染めを体験することができました。絞り染めは細かい作業で、出来上がりが全く想像できずなかなか難しいものでしたが、その土地の文化や歴史に触れることができる、貴重な経験となりました。今回参加するにあたり、いろいろと準備や下調べをしてくださった方々に感謝しつつ、高知を後にしました。



坂本龍馬記念館



古民家土佐水木

■土浦支部 池田 由紀代

「全国女性建築士連絡協議会 地方大会」へ約10年ぶりに参加させていただきました。出産&育児に時間の大半を置き、子供と離れることに躊躇しておりましたが、長男の成長と夏休みになったこともあり、思い切って遠方の地方大会へ

参加することに致しました。

台風の影響に不安を感じつつ、無事に高知空港へ到着。茨城と比べると湿度が高く蒸し暑く感じる陽気でしたが、大会会場はそれ以上の熱さでした。参加者から放たれるパワーがスゴイ！建

築に係る姿勢というか、使命感に燃えてるエネルギーというか、そんな見えない“気”をガンガンに感じながら会場入り致しました。初日は「被災地の現状報告」と高知県で活躍されている建築家・山本長水さんの基調講演「未来へつなぐ居住環境づくり」を拝聴させていただきました。2日目は各自興味のあるテーマの分科会へ参加。私はH分科会「既存民家の活用」を拝聴致しました。

私が最も心に残ったのは、「被災地の現状報告」です。宮城県、福島県からは東日本大震災の事。熊本県からは熊本地震の事。つい最近あった大阪府北部地震の事など、当時の問題点と数年たった今だから起きている問題点などを、被災

地・被災者から直に聞くことができました。大津波が来るから高い防潮堤を造り、それにより出来てしまった無機質な景色に心を痛める近隣の人達、放射能による風評被害と向き合う福島の人達、大地震時の建築士会の取り組みなど、どれもニュースでは知ることができない、とても貴重な内容でした。特に、福島の方が「福島は必ず立ち直ります!」と涙ながらに伝えられた時は、胸に熱いものがこみ上げてきました。茨城も被災地であったのに、全然違う境遇と無知な自分が少し恥ずかしくもなりました。あれから7年経ちますが、改めて当時の事や今後の事を考える良い機会を頂いた高知大会となりました。



会議風景



明日があるさ



土佐和紙



ガラス建材・アルミ建材を主とした建築建材の総合販売、左記の工事業、アルミサッシ及びガラスの加工及びペアガラスの製造、太陽光発電事業、リフォーム事業、耐震事業、地盤調査事業、不動産事業



〒315-0027 茨城県石岡市杉並1-7-16
 TEL 0299-22-2226 (代) FAX 0299-36-0022
<http://www.aoki-g.jp/> E-mail: aokiyl@aoki-g.jp

2016~2018



SHIBA
ARCHITECT
OFFICE

株式会社 柴建築設計事務所

水戸市泉町 3-1-28 第二中央ビル 7階
TEL 029 (227) 0222
FAX 029 (231) 0960

<http://www.shiba-arc.co.jp/>



一般社団法人
茨城県建築士会